

新規に指定された貴重図書について

New assigned Old and Rare Books in Tohoku University Library, 2017

小川 知幸

はじめに

東北大学附属図書館本館では、蔵書のうちとくに重要なものを貴重図書、また準貴重図書として指定し、適切な管理をするよう定めています¹。平成 29 (2017) 年度

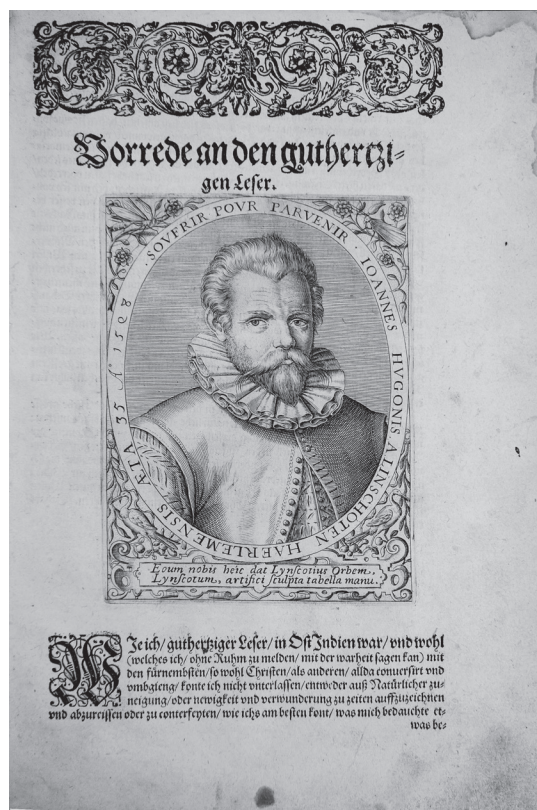
には貴重図書等委員会において 2 冊の洋書が貴重図書に指定されました (11 月の執筆時において)。本稿ではそれらの図書について紹介します。

1. リンスホーテン『東方案内記』(1598 年刊)

本資料は、オランダ²の旅行家で貿易商でもあったヤン・ハイヘン・ファン・リンスホーテン (Linschoten, Jan Huygen (Huijgen) van, 1563 - 1611) の航海記であり、一般に『東方案内記』と邦訳されています³。初版は 1596 年にオランダ語で出版されましたが、本資料はその 2 年後に刊行されたドイツ語版の初版(1598 年)です。

リンスホーテンは現在のオランダ北部の都市ハーレム (Haarlem) に生まれ、1579 年ころポルトガルのリスボンに移り、その後、インドのゴア (Goa) に向けて出奔しました。当時のインドはポルトガル領であり、ゴアはその首府としてインド総督府がおかれていました。すでに 1534 年からカトリック教会の大司教座が設置され、アジア布教の拠点となっていたといわれています。リンスホーテンは 1583 年から約 5 年間ゴアに滞在し、大司教の書記として働きましたが、そのときに収集したインドの人口や天然資源、商取引の可能性、また中国や日本などアジア各地の地理、歴史、民族等にかんする情報を、1592 年の帰国の後に「東方すなわちポルトガル領インド水路誌」(Itinerario, Voyage ofte schipvaert van Jan Huyghen van Linschoten naer Oost ofte Portugaels Indien) という題名で出版しました。ちなみに、ゴア滞在中にリンスホーテンは、マカオ経由で長崎からやって来た日本の天正遣欧使節 (天正 10 年 (1582) ~ 天正

18 年 (1590)) の通過するようすを目撃したようです。ゴアとリスボンの間には、喜望峰を回る定期航路が就



リンスホーテンの肖像

1 「貴重図書等の指定及び取扱い要領」(昭和 63 年 1 月 20 日制定, 平成 28 年 2 月 10 日最終改正)

2 当時はネーデルラント連邦共和国 (Republiek der Zeven Verenigde Nederlanden) と称された。現在のオランダとベルギー北部を含む。

3 リンスホーテン著『東方案内記』(大航海時代叢書 VIII) 岩波書店, 1968 年 (1991 年復刊)

航していました。

この著作により、ポルトガル、スペインの植民地や航路にかんする情報が初めてヨーロッパに広く公開されることになり、原書のオランダ語のみならず、英語訳 (1598年)、ドイツ語訳 (1598年)、ラテン語訳 (1599年)、フランス語訳 (1610年) など次々と出版されました。とくにオランダでは、1596年にジャワのバンテン王国に船隊を派遣し、さらに1612年にはジャカルタを占領しこれをバタヴィアと改称してオランダ東インド会社 (VOC) の商館を設けたことから、その後のアジアへの進出が決定づけられました⁴。

上記のような歴史的経緯を踏まえて、本資料は貴重図書等指定基準「4. 洋書 ア 刊本 ①1600年以前に印刷されたもの」に該当し⁵、また著名なタイトルであること、本学洋書貴重図書の一角を占める東洋関係書であることなどから、貴重図書として推薦され、本年7月20日の貴重図書等委員会により指定を受けました。

書誌記述 (簡略書誌) は以下のとおりです。

Ander Theil der Orientalischen Indien, Von allen Volckern, Insulen, Meerporten, fliessenden Wassern vnd anderen Orten, so von Portugal aus, lengst dem Gestaden Aphrica bis in Ostindien vnd zu dem Land China, sampt andern Insulen zu sehen seind : Linschoten, Jan Huygen van, — Franckfurt am Mayn : Johan Saur, 1598.

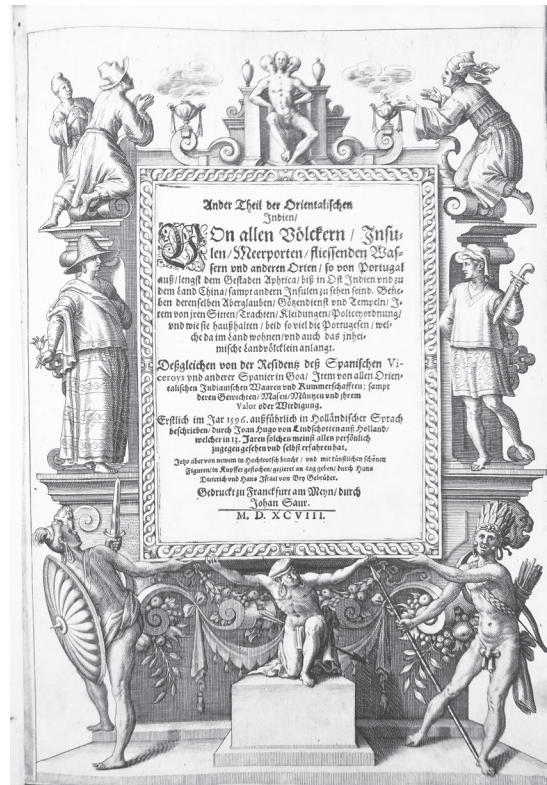
Author: Jan Huygen van Linschoten

Publisher: Johan Saur

排架記号 VA/2/B29

登録番号 洋甲 21395

ドイツ語版である本資料では、扉絵と標題紙が一体化されており、そこにはオランダ語初版よりも詳細な本タイトルが記載されています。この標題紙には本書の内容が一目で分かるようにと、アジアの人びと (とおもわれる) 肖像が描かれていますが、なかには当時の偏見や、一部にはインド亜大陸やその周辺の民族とは関係のない、新大陸の民族のようにみえる人びとも登場しています。具体的には扉絵下部の「インディオ」、すなわちネイティブ・アメリカンですが、インドとイ



扉絵・標題紙

ンディオとの語感の近かったことに由来する誤解にもとづくものなのか、あるいは、この扉絵自体が何か別の伝統的な意匠からのたんなる流用であったのか、他にもいくつかの可能性が想定されます。しかし、その解明は今後の調査研究に委ねるほかありません。序文にはリンスホーテンの肖像が掲げられています。

内容としては、とくに第26章に「日本島について」(Von der Insul Japonia) という章立てがあり、3ページにわたって日本の地理やその歴史、人びとの性質や文化などが論じられています (71～73ページ)。本資料は、本誌の中間報告でも述べたように、ミュンスターベルク文庫の調査のなかで発見されたものなので⁶、旧蔵者であるオスカー・ミュンスターベルク (Oskar Münsterberg) は、東洋・日本文化の研究をすすめるうちに、これらの記述においてスタンダードと考えられる本書を入手したのだろうと推測されます。おもて見返し紙にはミュンスターベルク自身のものとおもわれる、書誌にかんする書き込みと自署があります。

ところで、本資料について注意すべき点が2点あり

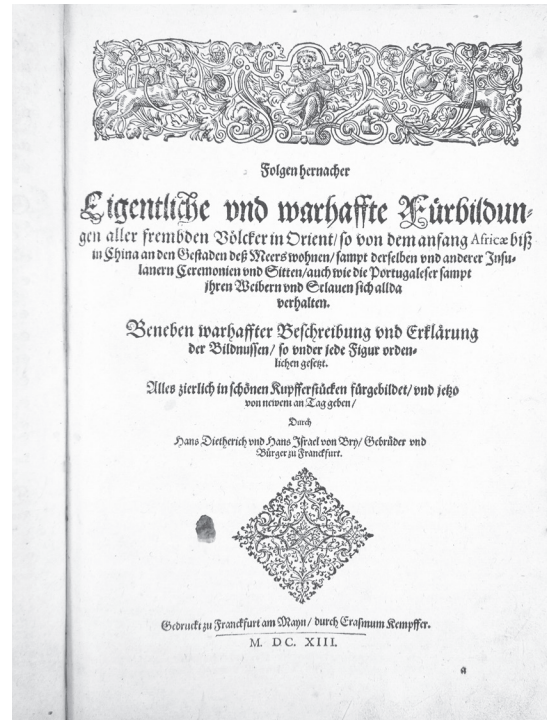
4 永積昭『オランダ東インド会社』近藤出版社、1971年、講談社学術文庫、2000年、165頁以降参照

5 「東北大学附属図書館本館貴重図書等指定基準」(昭和60年11月27日制定、昭和63年2月1日、平成15年10月8改正)

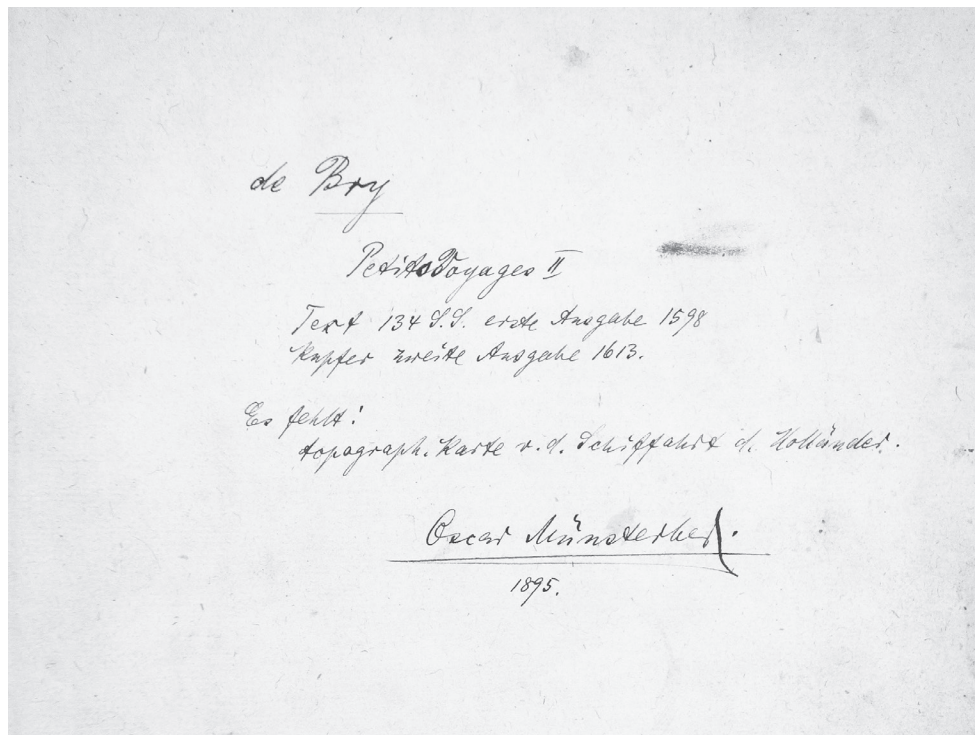
6 拙稿「中間報告 ミュンスターベルク文庫再構成の試み」本誌109頁

ます。第一は、これが本タイトルである1598年の刊本に、1613年の別の刊本が合冊されたものであるということです。それは同書の関連図版集であり、ここに当時のオランダ人のアフリカへの上陸や、インドでの習俗、ゴアの市場のようすなど、さまざまな図版が織り込まれています。また、次に、見返し紙のミュンスターベルクの書き込みにもあるように、そのうちの図版の一部が欠落していると推測されることです。ミュンスターベルクは、(この資料には)「オランダ人の航海図がない」と記しています。

このように、本資料は歴史的にみても価値のあるタイトルであり、図版集との合冊という点でも魅力にあふれたものであるといえます。また、書き込みなどをみれば、将来的にはミュンスターベルク研究においても重要な部分をなすであろうことが予想されます。



合冊された1613年の図版集



ミュンスターベルク自署など



1613年の図版集より「ゴアの市場のようす」

2. ベンボ『小品集』(1532年刊)

本資料は、ルネサンス期イタリアの詩人・人文学者で、ローマ・カトリックの枢機卿でもあったピエトロ・ベンボ (Bembo, Pietro, 1470 - 1547) による著作集 (opuscula) であり、「エトナ山について」(De Aetna) などを含む7つの小品や書簡を取録しています⁷。ベンボは14世紀の詩人ペトラルカの用いた言語をイタリア語の基礎とすることを主張し、標準イタリア語の確立に貢献したといわれています。

ベンボはおもにヴェネツィアで活躍し、出版者アルド・マヌーツィオ (Manuzio, Aldo, ca. 1450 - 1515) との関係も深いことで知られていますが、本資料は1532年にフランスのリヨンで出版書籍商セバスチャン・グリフ (Gryphe, Sebastien, 1492? - 1556) の手により刊行されました。グリフはヴェネツィアからリヨンに移り住み、1520年代からおもに人文主義者の著作を袖珍版(ポケット版)として多数出版し、「リヨン書籍商の第一人者」と称されました⁸。

また、ベンボは、「ベンボ書体 (BEMBO)」というスタイルセリフ書体にもその名を残しています。本資料の活字は、もちろんベンボ書体ではありませんが、アルドが作りあげた美しいイタリアック体の活字を彷彿とさせる、判読性の高い書体を多用しています。当時のヴェネツィアとリヨンの書籍出版における活況や両都市における人的交流などもうかがわせます。

そこで、本資料は、貴重図書等指定基準「洋書・刊本①1600年以前に刊行されたもの」に該当し、ピエトロ・ベンボの著作であること、また保存状態が良好で、当時の優れた活字書体を見ることができることなどから、貴重図書に推薦され、上記委員会により指定を受けました。

書誌記述 (簡略書誌) は以下のとおりです。

Petri Bembi opuscula aliquot, quae sequenti pagella connumerantur, Lugduni: Apud Gryphium, 1532.

Author: Pietro Bembo

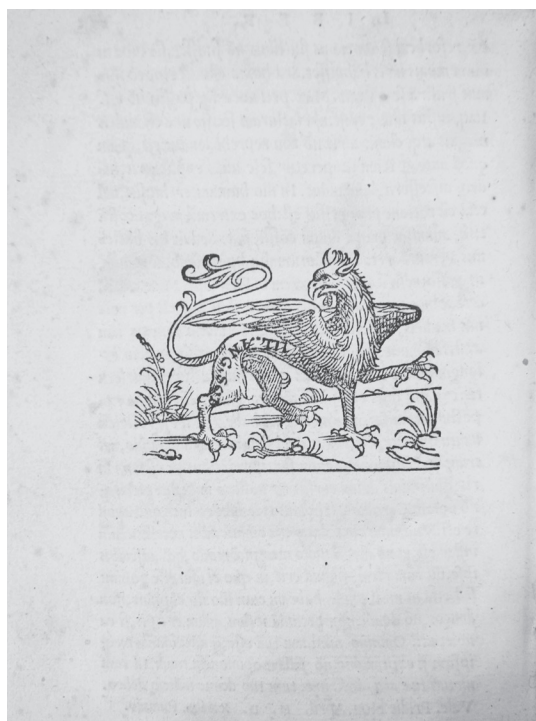
Publisher: Sebastien Gryphe

2 leaves blank, 3-271 pages, 2 leaves blank

Spine title: Bembi Opuscula



ベンボ『小品集』 標題紙



セバスチャン・グリフのオーナメント

⁷ 本タイトルの opuscula とはラテン語 opusculum の複数形で、short works の意味である。したがって、ここでは『小品集』とする。

⁸ 宮下志朗『本の都市リヨン』晶文社、1989年、52頁以降、各所に。

排架記号 IV,B/5/B5

登録番号 洋甲 157947

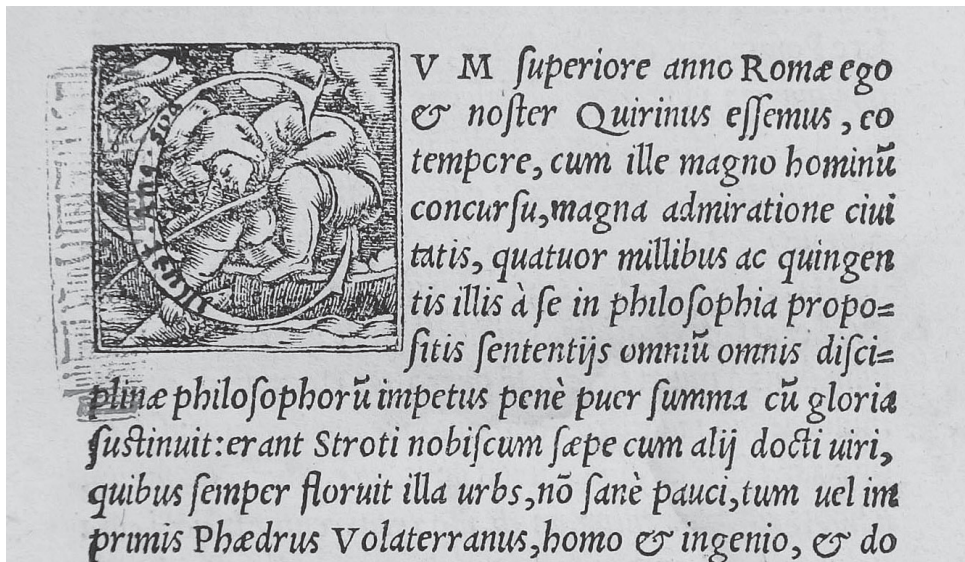
装丁はパーチメントをもちいており、見返しのマール紙のようすなどから17世紀ころのものと推定されます。したがって、本文の年代とは大きく違い、間違いなく改装を受けていますが、反対に、本文の標題紙付近には水濡れの痕跡があり、この水濡れの後に装丁し直されたと考えるのが妥当とおもわれます。とすれば、本資料はこれまで大切に扱われてきたことがうかがわれ、また、装丁も今から300年以上前の17世紀の風合いをよく保存していることから、現状をできるだけ維持するのが適当でしょう。

ところで、本資料にはシュマルソー文庫 (Schmarsow Bibliothek) の蔵書票が貼付されており、これもミュンスターベルク文庫と同様に、第二特殊文庫として一般蔵書のなかに混排されたものであったことがわかります。

シュマルソー文庫は、ライプツィヒ大学教授で美術史家であったアウグスト・シュマルソー (Schmarsow, August, 1853 - 1936) の旧蔵書であり、東北帝国大学には1925年(大正14)に受入れ登録されています。当時、

他の多くの特殊文庫は物故者からの購入(遺族等による売り立てと競売)でしたが、この年代にシュマルソーが存命であったことは明白なので、生前に手放した一部分と考えられます。ドイツにおける1923年ころのハイパーインフレーションが一因ではないかとおもわれますが、それはともかく、シュマルソーの業績については、わが国にはこれまであまり紹介されておらず、近年ようやく主著の邦訳が出版されました⁹。それによれば、シュマルソーはバーゼル大学のヤコブ・ブルクハルトのもとで美術史を学ぶことを希望したが叶わず、チューリヒ大学、次にシュトラスブルク大学で学び、さらにボン大学に移ったが、ふたたびシュトラスブルクに戻り、そこで学位論文を提出、その後ベルリンの美術館の臨時研究員となって、その間にゲッティンゲン大学に教授資格論文を提出し、その地の美術館の所長となった。さらにプレスラウ大学をへて、ライプツィヒ大学教授に就任、1919年までそこで勤めた、ということ¹⁰。1928年からはミュンヘンに移り、1936年にバーデンバーデンで逝去しました¹¹。83歳でした。

シュマルソーは芸術作品の形態やコンポジションに、一つ概念、あるいは法則性を見出そうとしたとい



本文に用いられた書体

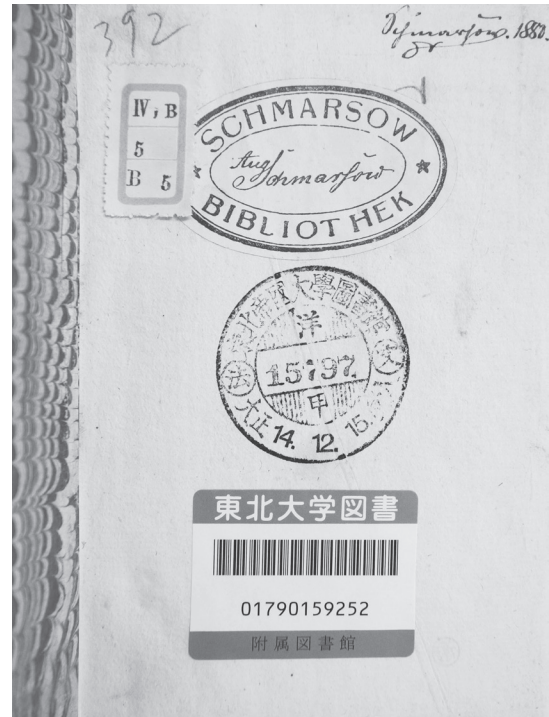
9 シュマルゾー(井面信行訳)『芸術学の基礎概念』中央公論美術出版、2003年。ただし、本学ではシュマルソーと呼び習わしてきたので、本稿では、「ゾー」とは濁らずに表記する。

10 上掲書、388—391頁

11 Peter H. Feist, "Schmarsow, August" in: Neue Deutsche Biographie 23 (2007), S. 121-123.

います。その定義が、「空間形成作用 (Raumgestaltung)」であり、それは、たんに視覚により抽象的に捉えられるものだけでなく、人間の身体構造に由来する表現の形成作用であり、歌うこと、語ること、身振りなどという活動における身体運動と触覚にも結びついている、というのですが¹²、そのような法則性をめぐる探究と、本資料がシュマルソーのなかでいったいどのように関係していたのか、ベンボのテキストなのか、書体や本の造りなのか、あるいはまったく別の側面であったのか、いずれにしても、シュマルソー文庫の全貌が明らかになれば、その手がかりはおのずと得られることでしょう。

(おがわともゆき、学術資源研究公開センター助教・
附属図書館協力研究員)



シュマルソー文庫の蔵書票

12 上掲『芸術学の基礎概念』, 391頁

